

ふるさと 故郷にいかっふ

歴史浪漫の旅

【第10回目～新冠町役場の変遷】

数奇な運命を辿った建物 「新冠の人々とともに、新冠町役場の変遷」

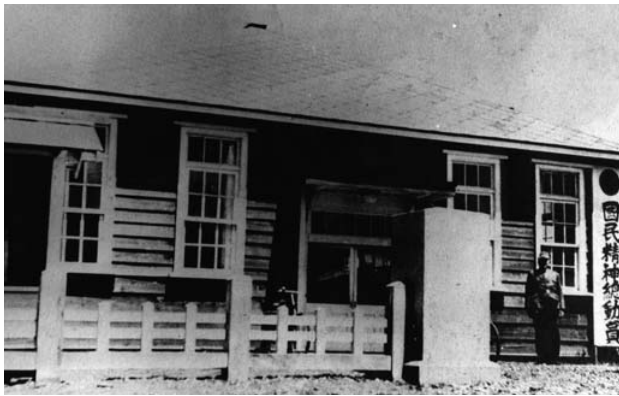
新

新冠町が開かれて、今年で百二十七年目を迎えるということをご存知でしょうか。これは、明治14年9月、新冠に高江村外10力村戸長役場が設置され、このときを新冠開町の日と定めているからです。

明治2年、蝦夷地は北海道と改められ、11力国86郡に区分されました。新冠の地域は、日高国新冠郡と命名されましたが、役場は下下方（静内）の管轄下でした。明治14年に新冠高江村に初めて戸長役場が設置されることとなりました。場所は本町にあつたといわれています。その後、明治22年に静内との合併に際し、高江村の戸長役場は廃止されて再び下下方に併合されました。

明

治40年、静内郡下下方から役場が独立して、再び高江（現新冠市街）に戸長役場が設置されました。



▲戦時中の新冠村役場

場所とは現在の中央町付近に位置していたといわれています。明治時代の新冠は、各部落が独立した名称を用いられ、役場も高江村外10力村戸長役場と呼ばれていました。当時は、高江村（現市街地、高江）、大狩部村（現大狩部）、葉朽村（現共栄）、受乞村（現共栄）、元神部村（現東川）、比字村（現美宇、親和）、泊津村（現東泊津、西泊津）、去童村（現朝日）、姉去村（現大富）、

万揃村（現万世）、滑若村（現若園、泉、新栄）の各村が所在していました。

大

正12年に北海道2級町村制が施行され、新冠町役場と改称されることとなります。昭和2年、役場庁舎を新築するとともに、現本町に建物を移転しました。この役場庁舎は、戦中の動乱をくぐりぬけ、新冠の人々の生活を見守ってきました。昭和26年、同じく本町に役

▼昭和26年に建設された庁舎。その後、昭和34年に焼失



▲かつて村役場があったことを記したエコミュージアム石碑（本町）

百二十余年にわたり新冠の変遷を見守ってきた役場。これからはどんな未来が待っているのでしょうか。

《文》新川剛生学芸員

みんなの広場

新冠小学校6年生です

ぼくとわたしの



◇将来の夢は、プロ野球選手です。理由は野球が好きだからです。

発田 隼杜



◇ぼくは、まだ夢が決まっていないので中学校に行ってから決めたいと思います。

山田 康介



◇ぼくの将来の夢は、J R Aに入ることです。理由は馬とふれあうのが好きだからです。

宗元 貴史



◇私の将来の夢は、ネイルアーティストか美容師になる事です。いろんな人をキレイにしてあげたいです。

村中 遥香



◇私の将来の夢は、馬術の国体選手になる事です。国体で良い成績を残して、いつかはオリンピックに進みたいです。

細川 映里香



また、競技の合間に、お母さん方が作ってくれた牛乳ココアが冷えた体を温めてくれました。

昨年、暖冬のためリンクができず、2年ぶりに作られたリンクも地域の父兄の皆さんが子供たちのためにと、苦労して作ってくれたものでした。

快晴、気温マイナス9度と絶好のスケート日和となった2月1日、美宇小学校（中館吉達校長・児童22名）で2年ぶりのスケート学習会が開催されました。

2年ぶりのスケート学習会 美宇小学校